

**MonotaRO**<sup>CS</sup>

# 壁裏探知器

[MRO-533] 37680237

使用する前に、この取扱説明書を最後までお読みください。

## はじめに

この壁裏探知器はスタッドや金属および交流電圧の検出にご使用できます。建造物、備品、木工品などにご使用できます。

## 【特 長】

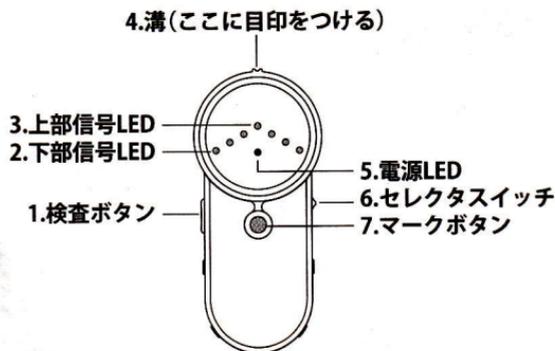
1. スタッドの中心を見つける。
2. 木製スタッドと金属スタッドを見つける。
3. 交流電線を検出する。
4. 釘、パイプ、鉄筋および他の隠れた金属を見つける。

## 【適 用】

この壁裏探知器は、下記のことに使用できます。

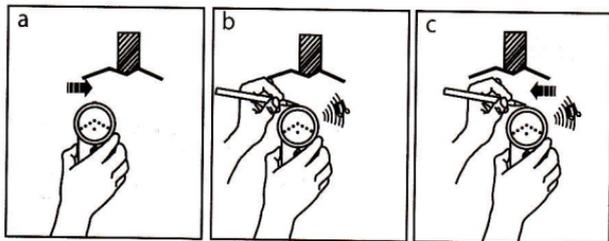
1. コンクリート内の金属パイプを見つける。
2. 電気ボックス、排気口、コンジット、鉄筋およびダクトを見つける。
3. 天井裏、床下および壁の裏の配線を検出する。
4. 手摺、天井ファンおよびシャンデリアを安全に取り付ける。

## 【各部機能説明】



- 1. 検査ボタン**  
壁裏探知器のスイッチを入れるのに使います。  
検出を行っている間、このボタンを押したままにしてください。
- 2. 下部信号LED**  
2つの下部信号LEDがあります。壁裏探知器が目標物体に近づく、まず2つの下部信号LEDが点灯します。
- 3. 上部信号LED**  
壁裏探知器が目標物体の端を検出すると、上部信号LEDが点灯します。
- 4. 溝**  
壁裏探知器が物体を検出すると、溝の位置に鉛筆で印をつけてください。
- 5. 電源LED**  
電源ボタンを押すと、電源表示器として電源LEDが点灯します。
- 6. セレクタスイッチ**  
3種類のスキャンモードを選択するために使うことができます。
  - ・スタッド ⇒ スタッドスキャンモード
  - ・金 属 ⇒ 金属スキャンモード
  - ・交流電線 ⇒ 交流電線スキャンモード
- 7. マークボタン**  
ボタンを押して、壁の表面に印をつけることができます。

## スタッドのスキャン



1. セレクタスイッチを「スタッド」位置にセットします。

2. 較正:

壁に向かって壁裏探知器を当てます。検査ボタンを押したままにすると、壁裏探知器は較正を開始します。音が2回鳴ると較正が終わります。この時は常に検査ボタンを押し続けてください。

3. 検出:

a. 壁裏探知器を壁に沿ってゆっくり横に動かします。壁裏探知器がスタッドに徐々に近づくと、信号LEDが下から上へ順に点灯します。

b. 上部信号LEDが点灯し、内蔵されたブザーが鳴り続けると、壁裏探知器はスタッドの端を検出しています。動きを止め、溝の位置に目印を付けてください。

c. 全ての信号LEDが消え、ブザーが鳴り終わるまで壁に沿って動かし続けてください。それから方向を逆にし、同じ手順を使って他方の端を探します。2つの印の間の中点がスタッドの中心です。

※注 記

1. スタッドの検出は、通常、壁紙の上から行えます。しかし一部のタイプの金属箔下地またはメタリック素材面では機能しない場合があります。
2. 較正を行うために壁裏探知器が偶然に壁の下地補強板またはスタッドの上に置かれた場合、壁裏探知器は正しく作動しません。
3. 検出したい壁の表面は平らで乾燥していなければなりません。
4. 金属検出および交流電圧検出を行って、検出される下地補強板または木製スタッドが金属パイプや活線でないことを確認するようお勧めします。時には、小さい締め付けねじ、釘、活線または金属体が検出される場合があります。
5. この壁裏探知器を使うとき、壁裏探知器からもう一方の手を離したままにしてください。
6. 通常、壁の中のスタッドは40cmから60cm離れており、スタッドの幅は約3.8cmです。
7. 2つのスタッドが隣接している場合、壁裏探知器は正しく検出しないことがあります。
8. 検査ボタンを離した後、再度使用したい場合、壁裏探知器の較正を行ってください。
9. 壁裏探知器を早く動かすと、信号LEDが順に点灯しない場合があります。

## 金属のスキャン

1. セレクタスイッチを「金属」位置にセットしてください。

2. 較正:

壁裏探知器を金属体から離して空中で保持し、検査ボタンを押したままにすると、壁裏探知器は較正を開始します。音が2回鳴ると較正が終わります。下記の過程では常に検査ボタンを押し続けてください。その後、スタッドのスキャンの3.検出と同じ方法で検出を行ってください。

## 交流電線のスキャン

最大の感度を得るために、この壁裏探知器を活線から離れた任意の位置に置いて開始します。

1. セレクタスイッチを「交流電線」位置にセットします。

2. 校正:

検査ボタンを押したままにすると壁裏探知器は校正を開始します。音が2回鳴ると校正が終了します。下記の過程では検査ボタンを常に押し続けてください。その後、スタッドのスキャンの3.検出と同じ方法で検出を行ってください。

### ※注 記

1. 表面、電線管内または合板壁の裏から検出限度よりも深い所にあるワイヤは検出されません。これらの状況では注意してください。
2. 壁の上の壁裏探知器をこすったり強打したりすると静電気を生じ、誤表示をする場合があります。
3. 漏れ電流検出時の微小電流により、一部の状況では変な表示が見られる場合があります。つまり絶縁不良の導体が湿った壁に接触している場合、壁裏探知器は壁の上の電圧を表示します。この状況では壁裏探知器は危険性があることを示し、電圧計で確認する必要があります。

### 【注 意】

1. 壁表面へ電気配線や配管が近接している状況次第では、壁裏探知器はスタッドと同じようにそれらを検出する場合があります。これらの品目を含む壁、フロアおよび天井に釘を打ったり、切り込みを入れたりまたはドリルで穴をあけるときは、常に注意してください。
2. 電線の近くで作業するときは、必ず電線の電源を切ってください。
3. 近くにある物または幅が異なる物は何でも、追加のスタッド、天井野縁または防火帯である場合があるので注意してください。

4. 壁裏探知器を長い間使わない場合、電池を取り外してください。
5. より正確な位置結果を得るために、さまざまな方向に検出物周辺の検出を繰り返すようにお勧めします。
6. シールドワイヤまたは、金属性導管、保護管、金属壁、あるいは厚く高密度の壁の中にある活線は検出されません。
7. 湿度が非常に高い場合または強い電磁界では壁裏探知器を使わないでください。

### 【仕 様】

検出の深さ	スタッドモード	30x30mmの木製スタッド: ≤14mm
	金属モード	φ20mmの鉄パイプ: ≤25mm
	交流電線モード	50-60Hz、90-250Vで50mmの標準深さ
動作条件	相対湿度75%未満で-7℃から40℃	
保管条件	相対湿度85%未満で-20℃から50℃	
寸法	163×74×26mm	
重さ	約140g(バッテリーを含む)	
電源	9V電池×1個	

※検出の深さおよび端の検出は、材料の含水量、壁質、塗料などにより異なります。

### 【電池の交換】

検査ボタンを押しつづけた時に、内蔵されたブザーが短く5回鳴ると、すぐに電池を交換してください。本体後ろにある電池カバーを外し、新しい電池を入れ替えてから、電池カバーを元に戻してください。